



2008年ワールドキャンパスインターナショナル (WCI)

我孫子滞在日記

住み良いまちづくり研究所 WCI 招聘実行委員会制作

4月2日(水) WCIホストファミリー対面式

けやきプラザ 2F ホール前で、17:30 から、ホストファミリーと WCI の学生の対面式が行われました。以前から何回もホストファミリーを引き受けて手慣れておられる方、初めてでドキドキしておられる方などさまざまですが、対面式というのは、どんな学生さんと会えるだろうと期待が高まる楽しいひとときではあります。

スタッフを入れて 26 名の方たちが、予定どおりに到着し、感激の対面を果たしました。子供さんたちは無邪気に学生たちと接し、覚えてた胃の英語で「マイ ネーム イズ・・・」とじこしょうかいに必死なのがほほえましいでした。今年は、この対面式と、4月5日、6日のビデオ撮りをしましたので、何かの機会に皆様に見ていただければ幸甚です。

4月3日(木) 我孫子活動説明・交流会

午前中は、けやきプラザ 7F 研修室で、日本語研修や、我孫子での環境についての活動の導入説明を行いました。今回から日本に興味を持つ学生を対象としたプログラムに沿って世界からの参加を呼びかけていますので、皆さん講師の話に真剣に耳を傾け、活発な質問もできました。住み良いまちづくり研究所が望むのは、研修生に単なる観光を提供するのではなく、様々の場所に住む人々の地域づくり、地域への思いを肌で感じ取り、研修生たちもまたそこで、学んだことを自国に持ち帰っていかせるものがあるかどうかを勉強する機会を提供することでした。日本人の持つありふれた人間愛が形作る地域への思いに素直に触れてもらい、其処から世界は実は一つなのだと感じて貰う事が大事だと思い、それが招聘する基本だと考えています。

午後は、5 日の国際交流に向けてのリハーサルを行いました。日本語、英語、母国語などがちゃんぽんに飛び交い、面白い場面がたくさん見られましたが、スタッフ、ボランティア、通訳の方々本当に御苦労さまでした。

4月4日(金) 谷津を愛する会・ガールスカウトと自然を楽しもう

谷津は、日本の典型的な田舎の里山自然のある場所です。つまり田んぼがあつて水を浄化する役目を負っている畦道があつて、その田んぼの中に小川が流れ、湧水池があります。そうしてその周りには雑木林が生えていて、その雑木林が斜面に生えると斜面林と呼ばれ、我孫子の土を守っています。其処に育まれる様々の生き物の数も目を見張るほどのものがあります。その自然を守ろうと行政に働きかけ谷津ミュージアムを作った団体の一つが、谷津を愛する会で、長きにわたる市民運動の中で、この地の確保に努めた歴史を勉強する

だけでなく、自然をスケッチする中で、研修生の心にも深く刻み込まれたようです。昼食の炊き出しで興味深かったのは、ガールスカウト出身の研修女性がいたことで、やり方や後輩指導なども自国と同じだと、懐かしさも込めてお手伝いをして下さったことでした。世界は一つの良い例だったと思います。

4月5日(土) 2008WCIアクタードール国際交流会in我孫子

JR 我孫子駅南口から徒歩一分、県の施設けやきプラザの二階にあるふれあいホールと外庭でのフリーバザー、向かい側にあるイトーヨーカドーのエントランスまで巻き込んで、住み良いまちづくり研究所の規模からすると無謀ともいえる大掛かりな催しを行いました。名付けて 2008WCI アクタードール国際交流会。アクタードールというのは、新木に住んでおられる赤崎とよ子様、和田すみ子様ご姉妹が考案なさったお人形ですが、アクター（俳優）という名前が示すとおり、100体近くのお人形が様々な衣装を着替えて様々な場面を演じることができるのです。ポイントは、体を支えている針金で、手足は勿論指の先、足指の先まで一本一本動かせるので、思う存分の場面を作ることができます。しかも衣装は、祖母や母親の形見の着物とか、洋服の端切れ、いらなくなった発泡スチロール、何でも再生利用できるエコ人形なのです。これをギャラリー“風”として、ご自宅のリビングを開放して展示しておられますが、その隅に住み良いまちづくり研究所が手掛けているエコ製品の販売コーナーを設けて下さっています。そのお礼も兼ねて国際交流の名前にしたので。講演は、環境企業 LLP プローベグループ代表の浅野喜久男氏に、現代の人類が直面する環境保全がいかに大事なことを、日本人は勿論、WCI 研修生にも訴え、自国に帰ってもその意識を持って生活してほしいと説かれました。WCI 研修生のレポートを読んで感激したのは、きちんと浅野代表のメッセージを受け取っていたことで、先進国と呼ばれる国に属する自分が、世界に向かって範を垂れることがいかに大事かという思いを胸に持って帰るということでした。これって、洞爺湖サミットに集まる国の指導者たちに感じてほしいと切に思うテーマの一つです。あびこ舞台（声なき氷像）、保育園のおはなし会（ぐんぐんぐんのびる、）どんぐらどんぐり（今日はあなたが生まれた日）、山岸（ハワイアンダンス）、スタジオNビート（ジャズダンス）、寺島（ハワイアンダンス）、我孫子中学校吹奏楽部（演奏）、めばえ幼稚園母の会コーラス（合唱）、藤川（パネルシアター）、あびこネットワークジュニアスタッフ、WCI 研修生（自己紹介）と出演者だけでも250名近くでした。それぞれの出し物に必ず WCI 研修生に入っていたいただいたのも、新しい試みだったと思います。

4月7日(月) 日本を学ぶ会

今回日本を学ぶ題材として第一部はお習字を選びました。自分の名前を練習後、色紙に書き、消しゴム印を作って赤押印するのですが、これなら母国に帰っても、自分の名前を押せるので便利です。決まりきった字ではないので、かえって芸術的価値のある字が続々生まれていました。

竹細工で注目すべきだったのが、ウガンダのヘンリー。竹を使って玩具が手品のように次々生まれるのに目を輝かし、「ウガンダでは、竹林は焼く対象でしかありません。しかし子供たちの喜ぶ玩具だけでなく、お盆や箆、コースターなどの日用品にも応用できるなら、資源の少ないウガンダで厄介者扱いされている竹林を救世主に変えることができます。帰国したら、ウガンダ政府に話して、渡辺陽一郎先生に私自身が弟子入りするか、だれかを派遣することも検討してもらいましょう」として後日サンプルを持ち帰るために再度渡辺先生卓を訪問して教えを請うたということでした。

この話が具体化して、我孫子との交流が始まるとよいと切に願っています。ちびっ子先生による、折り紙や彩とりも好評でした。子供たちは、言葉が喋れないと意識することが大人ほど、極端には表れないので、かえって実技の先生になれるのは良い経験だと思います。今後も何かの形で、子供たちにどんどんこういう機会を設けていけば、世界人となる子供たちも増えてくると思います。

4月8日(火) 水の館・鳥の博物館で我孫子のエコロジー体験

午前中は、我孫子市鳥の博物館、山階鳥類研究所の二大鳥施設の大きな違いを勉強しました。まず山科鳥類研究所は、**山階芳麿博士設立による鳥類全般の科学的研究を行う機関**です。鳥類学に関する図書や鳥類標本は、鳥類の研究に欠かせない基礎資料であり、なかには地球上からいなくなってしまった絶滅鳥の標本や 19 世紀の博物学書などの貴重なものも分類箱の中にきちんと納められており、日本で一番大きな施設です。総裁に秋篠宮文仁親王殿下を迎え、研究員として平成 17 年 6 月まで 13 年間、紀宮清子内親王殿下がお勤めになりました。それに対して我孫子市鳥の博物館は、「鳥とは何か」という素朴な疑問からスタートし、鳥の起源と進化、世界の鳥、鳥の飛翔・・・等について理解を深めてもらうことに重点を置いています。鳥類誕生の鍵をにぎる始祖鳥の化石の復元展示をはじめ、絶滅鳥エピオルニスEpiornisの卵など貴重な展示が多く、また、色・形・大きさなどバリエーションに富む世界の鳥の**実物剥製**を一堂に展示しています。

今日、環境問題が人類の大きなテーマです。生物多様性の保全是 21 世紀初頭に生きる私達の、次世代に対する責務です。鳥が棲めない地球に人間は住めません。これが我孫子市のテーマであり、住み良いまちづくり研究所が WCI に提供する「環境」学習取り上げの大きな動機の一つです。

午後県の施設である親水広場通称水の館での体験学習を行いました。手賀沼の水質浄化は、北千葉導水並びに浚渫工事のおかげで急速に進み、27 年間の日本ワースト第一位の座をやっと、他の沼に譲り渡せたことが、研修生の注意を引いたようです。施設の中にある地下水流動模型も好評でした。地下水は、その字が示すとおり“地下にある水”で、「湧き水」や「井戸水」などでしか見たりさわったりできません。

でも、この模型では、下の項目について解りやすく説明できます！**地下水はどこからやってくるのか、井戸はどのようにしてできているのか、湧き水や自噴井戸はどうして地面から湧き出すのか等々**です。とても有意義な時間を過ごせました。

4月9日(水) 電力中央研究所での災害対策と環境保全の施設見学と生活環境と老化現象体験

午前中に訪問しました電力中央研究所は、我孫子市の誇る財団法人研究施設の一つです。広大な敷地に存分の施設が、建っております。最近では、地球温暖化対応策を研究の大きな柱の一つとしており、CO₂の排出源である化石燃料の急激に増加する消費に対する対策、削減策技術の開発に力を入れ、日本でのリーダー格となっております。その先進的技術の見学を、研修生は熱心に見て回っていました。

津波や地震などの災害対策も模型を使って説明していただけるので、ある意味わかりやすいです。

午後からはけやきプラザ 1F の福祉体験所で、生活環境と老化現象福祉体験を行いました。様々の器具を使っての実験で、目が見えなくなる、手足が不自由になるのがどんなに大変なことが良くわかります。特に北欧三国の研修生たちが一生懸命命題に取り組んでいました。

4月11日(金) エクソンモービル研修 (研修生レポートより)

エクソンモービル＝世界的企業 多くの方が新聞やテレビ等でこの社名を聞いたことがあります。エクソンモービルは石油精製会社の世界的規模の会社の一つです。

4月11日、我々は東京にあるエクソンモービル社を訪問し会社について勉強する機会がありました。そしてU35のメンバーに会うことも出来ました。U35は社内の各部門にまたがるクラブで若い社員

で社内の色々な活動を企画しています。今回のワールドキャンパスインターナショナルとの交流ではホスト役を務めてくれました。

我々が会社のビルに入るや否や、エクソンモービル社の代表である吾妻さんが温かい歓迎をしていただき、会社の紹介と予定についての話がありました。ゲストファシリテーター河村氏によるチームビルディングでワールドキャンパスジャパンとU35メンバーがお互いの考えを話し合える良い雰囲気ができました。

次に異文化コミュニケーションのトレーニングを受けました。それによると、人はそれぞれに規則や習慣を作るが、二つの文化が一緒になるときは新しいルール、即ち第三のルールを作る必要があるということです。ワールドキャンパスジャパンのメンバーはすでに経験していました。

夕食会では美味しい食事を楽しみながら、新しい友人と語り合い色々なアイデアをいただきました。

この行事はとても勉強になったので、将来的に継続されることを希望します。

キャサリーナ・ハアク（ドイツ）

4月12日(土) 高野山地区スポーツ少年団・父兄との交流戦

先ずサッカー・バスケットチームと研修生たちのそれぞれの自己紹介で始まりました。最初はサッカーの交流戦でしたが、とても面白かったのは、ヨーロッパ勢とか、日中の学生たちがとてもまめに動くのに、アメリカとか中南米、アフリカの研修生は、のんびりと動くので、小学生の方が優勢の場面がしばしば出ることです。手加減するというのではなく、普段あまり動いていないからということでした。唯負けっ放しは良くないと、研修生の選抜チームが出てきたら、さすがに小学生チームはコテンパでしたが、それでも全力で戦ったという満足感が児童たちの顔に漂っていました。この企画は、研修生たちにも好評で、スポーツ少年団との交流は、単なる交流ではなく、活動の焦点が明確でメリハリのある活動となったという言葉を受領した。

第二回ワールドキャンパスジャパンプログラム・フィナーレ

4月13日（日2）008年ワールドキャンパスジャパンの春クラスは千葉県我孫子市のこもればいホールでその卒業式をもって無事終了しました。

16人のメンバーはホストファミリーに伴われてホールに到着した。ホストファミリーと我孫子地域委員会の方々には自宅で作った食事を持参しました。何人かの方はノルウェーのライスプディングやアメリカのルバーブケーキ等メンバーと共同で料理された方もありました。これは俗に**ポットラックパーティー**といいますが、どんなお料理が出てくるかとうじつまでわからないので、ある意味びっくりパーティーともいえましょう。これは研修生のみならずホストファミリーにとっても楽しい催しものでした。

おいしい食事をした後メンバーはステージに上がり終了証書を受領しました。学生一人一人がホストファミリーや同僚から祝福を受けました。終了式の後には母国に帰国するに当たっての心構えについての話や夜はカラオケで楽しみました。

翌日、第二回ワールドキャンパスジャパンプログラムは正式に終了しました。14カ国から参加した有望な学生達は成田空港で「さようなら」とは言わず「そのうちまた会おうね」といって別れました。

最後にワールドキャンパスインターナショナル代表の西村紀君公氏から以下の様な挨拶がありました。「私は第二回のプログラムが成功裡に終了したことを大変喜ばしく思っております。私どもはまだまだ勉強することが沢山ありますが、正しい方向に進んでいると信じております。ワールドキャンパスインターナショナルファミリーのメンバーとなり数々の

貢献をして頂いたホストファミリーの方々や地域委員会の皆様そして参加学生の皆様に深く感謝申し上げます。これから将来に向けて更に世界中のネットワークを広げて参ります。」

<写真>

もしこの様に思い出深い日本旅行に参加希望される方がありましたら次回のプログラムにどうぞ応募してください。次回予定は、セッション1：2008年6月23日—7月16日、セッション2：7月17日—8月11日

またお会いできるのを楽しみにしております。

ワールドキャンパスインターナショナルチーム
トーマス・グレーブ

最終日：4月14日(月) 帰路

[最後に研修生のまとめたレポートを載せます。](#)

我孫子市でのテーマ「環境」

4月14日（最後のまとめ）

ご存知の様にワールドキャンパスジャパンツアーでは訪問する都市にそれぞれテーマがあります。我孫子市では「環境」でした。このテーマは私が強く感じている問題ですが範囲が広いテーマでもあります。

環境を考えると自然そのものを話しても良いのですが、自然に生息する身近な動物のことも大切です。しかし環境問題は地球規模で論議されるべきで、今や環境問題と言うと地球温暖化のことを指すようになりました。どのような環境を次世代に残したいかまたそれに関する倫理とモラルはどういうものかを議論します。

これらのことを前提にして我孫子市とワールドキャンパスジャパンはそれらの幾つかのテーマにフォーカスしました。

それは宇陀市で「不便な真実」という映画を見ることから始まりました。映画は地球温暖化がなぜ問題なのかを取り上げています。作成者のアルゴアは何故環境や地球温暖化問題に関心を持ったかを論じています。映画は地球温暖化に関する幾つかの事実を示し何故大切な問題かを示しています。幾つかの事実は科学的に証明されておらず、映画は良い意味でも悪い意味でも批判を受けてきました。しかし発せられたメッセージは科学界では受け止められ世界レベルでの議論が始まりました。

我孫子では鳥の博物館や水の館を訪問しましたが、手賀沼の周りの自然環境も観察しました。音楽会の行事の時に地球温暖化や先進国が取るべき責任について話される方がありました。話された内容で興味深かったのは先進国の定義でした。先進国の定義は経済規模だけなのか、環境は加味されないのか。もし環境のことを考慮すれば先進国といわれる国はほんの一握りの国に限られてしまいます。

鳥の博物館や親水広場を訪問することにより我々の周りの自然を観察する機会があり、人間の活動が我々の共有し愛する環境に如何に影響を与えるかを学びました。

更に親水広場では、27年間日本で一番汚染している湖を如何にしてきれいにしたかを学びました。意識改革を急激に行い手賀沼を綺麗で美しい湖となるよう浄化プロセスを進めたそうです。

私は一週間前に見た映画の続きとしてグループのメンバーに私の環境に関する熱い思いをプレゼンテーションする機会がありました。映画「不都合な真実」は解決策よりも問題点に焦点をあてていますが、私はその続きとしてパワーポイントを使用し皆が実際にできることまたそうする事でどう変わるかにフォーカスをおきました。

私は最もインパクトのある解決策に焦点を当てました。勿論リサイクルが、廃棄分が少なくエネルギー消費が少ないという点でトップです。しかし肉の食事を減らすとか交通手段を変えるとといったこともより少ない道具を使用するという面で大きな影響力があると思います。

最も重要なことは自分のした事が環境にどう影響するかの関連を知ることだと思います。例えば化学物質は我々が使用量を減らし環境中にある物質の量を減らさない限り減ることはないでしょう。然し問題を他人に知らせ、問題に気付かせるようにすれば問題の50%は解決したようなものです。皆で一緒にやれば変えられる。

もし変えたいと思った時長続きさせるために自分が快適と思う範囲の変化をすることです。

色々な情報や活動に富んだ週間でしたが、環境問題の学習は楽しかった日本での素晴らしい結論であり、また世界市民となる素晴らしい基礎となりました。

ジョナサン・シグナウス (スエーデン)